

# 平成21年度外国語活動における教材の効果的な活用及び 評価の在り方等に関する実践研究事業

弘前市立北小学校

## 1 学校の概要

### (1) 学校規模

- ① 学級数：16学級（内特別支援学級2学級）
- ② 児童数：476名
- ③ 教職員数：26名
- ④ 活動の対象学年：5学年・3学級・115名，6学年・3学級・90名

### (2) 学校環境

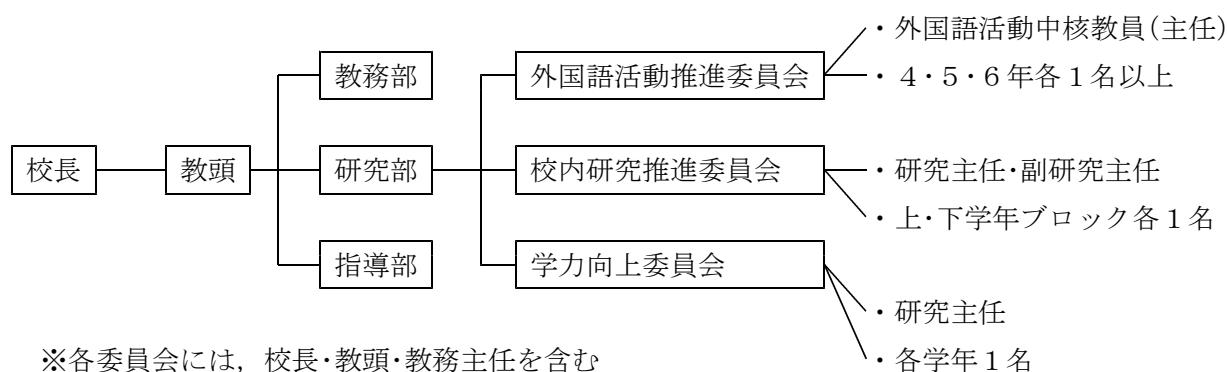
- ① 北小学校は人口約18万人の弘前市の北部に位置している。最近，バイパスが通り宅地化が進んでおり，学校周辺には，医院や公共施設，コンビニエンスストアやスーパーマーケット，飲食店なども増え，学校を取り巻く環境は次第に変化してきている。
- ② 本地域は，地域の諸団体や町会組織がしっかりしており，学校教育の推進に大変協力的である。周辺地域には，英語を話す外国人や英語の堪能な日本人は住んでいないが，英語塾等はある，通っている児童もいる。

### (3) 連絡先

- ① 住所：〒036-8062  
青森県弘前市青山三丁目15番地1号
- ② 電話：0172-33-6780
- ③ FAX：0172-33-6852
- ④ ホームページ：<http://www.hi-it.net/~kita/>
- ⑤ 電子メール：kita@hi-it.jp



## 2 事業推進組織



### 3 事業経過

月	取組の内容	備考
4月	・研究組織づくりと研究全体計画(内容・方法)作成 ・年間指導計画作成 ・ALT・JTEの派遣依頼と配置計画作成 ・授業指導力向上研修会(DVD「You can do it.」活用)	・年35時間TT体制
5月	・外国語活動推進委員会(教材・備品, 図書等) ・外国語活動に対する児童の意識調査①	・5・6年対象
6月	・第1回校内研究授業(6の1)研究授業及び研究協議会 ・授業指導力向上研修会(ICT・クラスルームイングリッシュ) ・青森県総合学校教育センター「小学校外国語活動研修講座」 ・第1回青森県外国語活動における教材の効果的な活用及び評価の在り方等に関する実践研究事業推進協議会	・指導主事を要請
7月	・授業指導力向上研修会(指導主事を要請) ・英語運用能力向上研修会(ALT・JTEを要請) ・外国語活動推進委員会研修会 ・弘前大学教育学部附属小学校公開研究会参加	
8月	・外国語活動に関する教職員の意識調査① ・外国語活動推進委員会研修会	・全教職員対象
9月	・ALT・JTEと指導法の打ち合わせ ・外国語活動推進委員会研修会 ・文部科学省外国語活動に関する児童向け意識調査1	
10月	・外国語活動推進委員会研修会 ・雫石町御明神小学校公開研究会 ・北海道・東北ブロック別小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修	
11月	・第2回校内研究授業(5の1) 研究授業及び研究協議会	・指導主事を要請
12月	・外国語活動に関する保護者の意識調査 ・外国語活動推進委員会研修会	
1月	・今年度の研究のまとめ(教職員に対しアンケート調査実施) ・外国語活動推進委員会研修会(指導主事を要請) ・外国語活動中核教員研修会〔中南地区〕 ・英語運用能力向上研修会(ALT・JTEを要請) ・授業指導力向上研修会 ・文部科学省外国語活動に関する児童向け意識調査2 ・文部科学省実践研究校教員用意識調査実施	・次年度の計画案 ・中核教員研修会にて、TT体制の授業を提案
2月	・外国語活動に関する教職員の意識調査実施② ・外国語活動推進委員会研修会 ・研究のまとめ	
3月	・次年度の方向性の検討 ・外国語活動推進委員会研修会	

### 4 具体的取組内容

#### (1) 文部科学省が作成する小学校における外国語活動のための教材を活用した授業の実践

- ① 全35時間、電子黒板またはプロジェクターと英語ノートを使った。指導資料に即して授業実践を行った。
- ② 英語以外の外国語を扱う場合は、電子黒板を使って位置関係を世界地図上で、国の特色を写真情報で視覚的に捉えさせた。挨拶などは音声情報として繰り返し聞かせた。覚えた挨拶は、日常生活の中でも使っている。
- ③ 身体表現が必要な場合はCDを使い、広い場所で音声に集中させて活動させた。

- ④ 児童が電子黒板を操作しながらフルーツパフェを作り、それについて児童が尋ねたり答えたりするコミュニケーション活動を行った。スクリーン上でフルーツパフェが出来上がっていくのを見せるのは効果的であった。
- ⑤ 「自己紹介をしよう」の単元では、聞く側の児童が一方向的に聞き取る活動になることを避け、能動的に聞く姿勢に転換させるため、発表者の内容を聞き取り、聞き取った内容を復唱するような活動に組み替えて実践した。
- ⑥ 「自分の一日を紹介しよう」の第2時と第3時を入れ替え、その結果、活動に必要感をもって臨むことができた。順番をかえることで前後する新しい表現は、動作を表したピクチャーカードを使って、学習内容を確認した。
- ⑦ 「オリジナルの劇をつくろう」の1時間目は、聞く活動が多く、学習が単調になり、主体的に取り組むことが難しかった。確認の必要もあり、聞かせる活動が多くなる場合は、聞くときのポイントを示唆することが大切である。

## (2) コミュニケーション能力の素地に関する評価の観点及び評価方法の研究

- ① 評価規準は「関心・意欲・態度」「言語や文化に対する体験的な理解」「コミュニケーションを図ろうとする態度」「音声や表現への慣れ親しみ」の4観点を設定した。毎回の授業で全観点を扱うのは難しいので、「関心・意欲・態度」ともう1観点の2観点で評価してきた。
- ② 授業後、「ふり返しカード」を使って児童に自己評価を行わせた。「ふり返しカード」のめあては、「言葉や文化について理解を深めよう」「積極的にコミュニケーションを図ろう」「外国語の音声や表現に親しもう」の3観点で、単元毎に「ふり返しカード」を作成して自己評価に取り組ませた。「ふり返しカード」は、毎時間学習後に児童自身が記入する。自己評価は、「とてもよい」が◎、「よい」が○、「がんばろう」が△の3段階評価とした。感想欄は自由記述とし、学習内容や活動、ALT・JTE関連、今後の希望等を書かせた。毎回回収して、教師が助言、励まし等を記入後返却した。自己評価カードの蓄積を、ポートフォリオとして活用している。評価結果を児童にフィードバックしながら授業展開を工夫した。
- ③ 評価は、「診断的評価」「形成的評価」「総括的評価」をスパイラルに取り入れながら評価結果を実践に生かした。
- ④ 診断的評価の結果を踏まえ、学習開始当初はクラスルームイングリッシュの使用頻度を抑えるなど実践を工夫した。
- ⑤ 形成的評価の方法は、行動観察、発表観察、英語ノートの点検、座席表を使つての記録などを用いた。
- ⑥ 「ふり返しカード」に書いた教師のコメントを児童が読むことで、評価においても教師と児童のコミュニケーションを図ることができた。そのため外国語活動に対する意欲・関心が高まり、学習活動が活性化された。
- ⑦ 子どもの学習をポートフォリオとして積み上げることにより、総括的評価に生かした。

## (3) 児童の興味・関心等の学習状況の変容に関する定量的な把握及び文部科学省が実施するアンケート等の調査の実施

- ① 図1及び図2は、外国語の授業が好きかどうかの回答結果である。「好き」「どちらかといえば好き」の合計が、5年生は9月と1月が同程度、6年生は若干減少傾向を示している。「ふり返しカード」の記述から、「知りたいけれど分からない」ことへの不安感があることが

分かった。

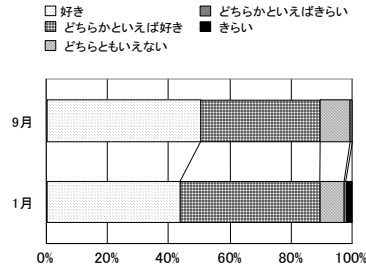


図1「外国語の授業は好きですか」(5年)

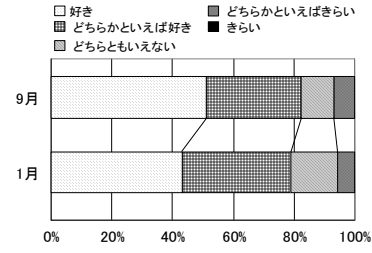


図2「外国語の授業は好きですか」(6年)

② 図3及び図4は、授業への参加の回答結果である。「進んでさん加している」「どちらかといえば進んでさん加している」の合計が、5・6年共に若干増加傾向を示している。コミュニケーション能力の素地の育成に向けて、情意面での評価活動が功を奏していると考えられる。

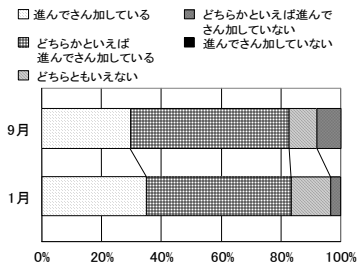


図3「外国語活動の授業に進んでさん加していますか」(5年)

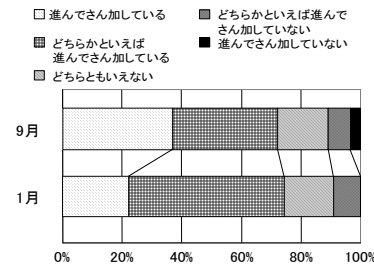


図4「外国語活動の授業に進んでさん加していますか」(6年)

③ 図5及び図6は、授業内容の理解度の回答結果である。特徴的なのは、5年生の「理解している」割合が減少し、「どちらかといえば理解している」が増加していることと、6年生の「理解している」が増加し、「どちらかといえば理解している」が減少していることである。また、6年生は「どちらともいえない」が増加傾向を示している。

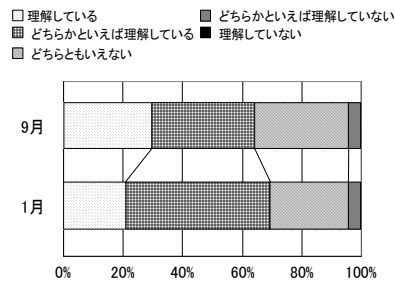


図5「外国語活動の授業の内容をどれくらい理解していると思いますか」(5年)

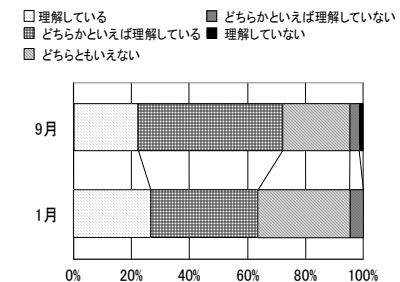


図6「外国語活動の授業の内容をどれくらい理解していると思いますか」(6年)

④ 図7及び図8は、英語を使えるようになりたいかという質問に対する回答結果である。5年生は「そう思う」が減少し、6年生は「そう思う」が増加している。また、「わからない」に関しては、5年生は増加、6年生は無しというように、学年間での相違が見られる。

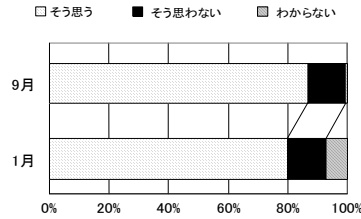


図7「あなたは英語を使えるようになりたいですか」(5年)

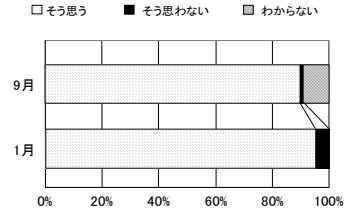


図8「あなたは英語を使えるようになりたいですか」(6年)

⑤ 図9図及び10は、英語の重要性についての回答結果である。5・6年共に、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が、若干の増加を示している。「そう思う」という割合は、先の図7及び図8と同じような傾向を示しているのが特徴である。6年生は「英語は大切」「使えるようになりたい」と前向きに考えている。

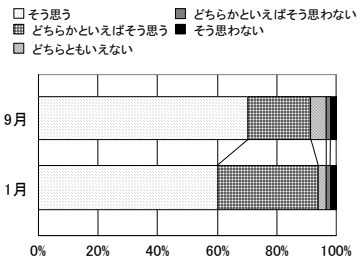


図9「英語は大切だと思いますか」(5年)

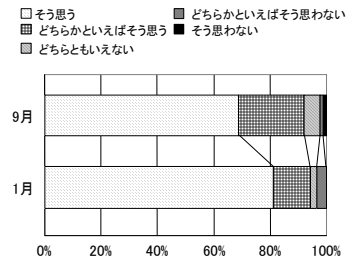


図10「英語は大切だと思いますか」(6年)

⑥ 図11及び図12は、外国の人が英語で話しかけてきたらどうするかという回答結果である。5・6年共に「だまっている」という選択をした児童が、少数いた。また、5・6年共に「日本語での受け答え」「英語での受け答え」の割合が減少している一方で、「ジェスチャーを使っての受け答え」の割合が増加している。ALT及びJTEとのコミュニケーション活動から体験的に学んだジェスチャーの有効性が、「ふり返りカード」の記述からも分かる。

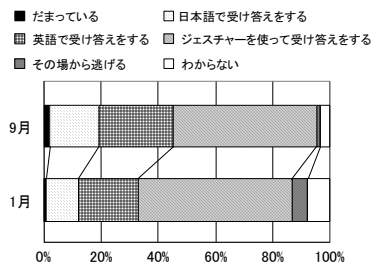


図11「もし、あなたに外国の人が英語で話しかけてきたら、あなたはどのように思いますか」(5年)

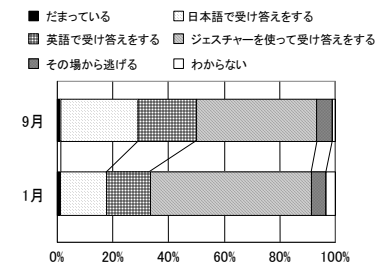


図12「もし、あなたに外国の人が英語で話しかけてきたら、あなたはどのように思いますか」(6年)

#### (4) 授業の中心となる学級担任等及び校内の他の教員の指導力向上のための取組

① 授業力向上研修会では、中核教員研修会の資料を使い、外国語活動導入の背景や学習指導要領の趣旨等について伝達した。ICT関係については校内の視聴覚部と連携し、電子黒板の設定や操作の実際を、他教科での活用事例も含めて行った。電子黒板対応のテレビが設置さ

れた後は、この操作研修も授業指導力向上研修で行った。

- ② 英語運用能力研修会では、中核教員研修会の内容を伝達した。「外国語活動研修ガイドブック」のCDを使って、クラスルームイングリッシュの練習を行った。ALTを招いての学習会では、ゲームを取り入れながら、児童の意欲を高める指導法などを学んだ。
- ③ 6月と11月に、5・6年生の研究授業を行い、全職員で参観、協議会を行った。実際の授業を見ることで、研究について共通理解を図ることができ、指導力向上の参考になった。
- ④ それぞれの学年で、単元の前に学習内容の確認や、教材・教具について協議した。単元4時間の展開を概観した後に、1時間ずつの授業の留意点について確認した。これをもとに授業当日にALTと打ち合わせをし、授業に臨んだ。

#### (5) 学級担任等を補助するためのALTや地域人材等の外部人材の効果的な活用

- ① 年間35回、市教委からALT・JTEを派遣してもらい、毎回学級担任とTT体制で授業実践を行った。
- ② 授業前、当日の授業についての打ち合わせを必ず行ってから授業に臨んだ。特に、役割分担する部分や、ピクチャーカードの確認、電子黒板を使う場面、活動場所については、念入りに打ち合わせを行った。
- ③ ALTとのTT体制の授業では、突然の児童の質問にも安心して対応することができた。また、学級の児童数が多いため(38人・39人)、TT体制の場合、児童の学習をよりきめ細かくみとることができたほか、各種の活動についても対応しやすくなり、多くの児童がより積極的に学習に取り組むことができた。

#### (6) 他の小学校や中学校等との連携

- ① 1学期に学区中学校での交流協議会があり、中学校の英語の授業を参観した。
- ② 2学期に行われた中学校区小中連絡協議会では、会場校の外国語活動の授業を参観し、協議会では自校の実態や研究について進捗状況を伝えた。研究協議会に参加していた中学校の英語の先生方から、小中の連携の大切さや外国語活動に期待することなどを聞いた。

#### (7) その他(校内における外国語活動推進体制の構築、地域との連携等)

- ① 外国語活動推進委員会を開催し、進捗状況把握や教材及びICTなどの活用について協議した。
- ② 学校評議員や教育委員会に対して、外国語活動の授業参観をってもらう機会を多くもった。
- ③ 校内研修が、国語と外国語活動の2本立てであることから、研究組織のあり方について研究した。国語部と外国語活動部の主任と副主任、校長・教頭・教務主任でプロジェクトチームを作り、時には指導主事も招聘して校内での研究体制や今後の方向性について協議を行った。

## 5 取組の成果と課題

### (1) 成果

- ① 児童はとても楽しんで外国語活動に参加していて、外国語に対する抵抗感は少ない。今年度の6年生は昨年の学習がないまま「英語ノート2」の学習を行い、時には既習事項がないまま難しい学習に直面することもあったが、最初よく分からなかったこともいつの間にか聞

いたり話したりすることが自然に行えるようになってきた。「習うより慣れろ」「継続は力なり」というが、児童は意欲的に学習している。

- ① 英語ノートでの学習を通して、外国との文化の違いにも目を向けることができるようになり、児童の視野が広がった。また、複数のALT(7名)やJTE(4名)との出会いから、外国についての理解も少しずつ深まってきている。多くの人との関わりから「積極的にコミュニケーションを図ろう」という児童が多くなった。児童にとっては指導に来る人がその都度変わってもあまり抵抗がなく、むしろ刺激的に感じているいろいろな出会いを喜んでいた。
- ② 外国語活動を楽しみにして、毎日の生活が豊かで充実したものになっている児童もいる。身近なところで外国語を聞いたり話したりすることも増えてきた。ジャンケンやチャンツなどは、休み時間の遊びの中にも取り入れられている。外国語に対する意欲が高まり、習い事として習い始める児童も見られた。
- ③ 今年度の5・6年の担任は、外国語の授業も従来の教育活動と同じスタンスで授業しているため、特別負担に感じたり抵抗感を訴えるということがなかった。参観日に外国語の授業を公開したいと張り切っていたが、新型インフルエンザ蔓延のため参観日が中止となり残念だった。学校訪問等で外部から来校者がある場合にも、積極的に授業を公開することができた。

## (2) 課題

- ① 保護者アンケートの結果から、外国語活動の趣旨や内容がまだしっかり伝わっていないことが明らかになったので、更に情報を発信していきたいと考える。中学校の学習がスムーズに始められるようなスキルアップを求めている親が多くいる。
- ② 今年度は中学校との連携がうまくできなかった。中学校の英語の先生の中にも、文字の定着を期待するなどの勘違いの部分があった。中学校との連携を図るためにも、中学校の先生方の研修が早急に必要だと考える。

## (3) 次年度以降の継続・展開

- ① 新年度は公開研究会へ向けて、まず6月に6年生1学級が提案授業を行う。これをもとにして10月に公開研究会を行う。この公開研究会は、自校の学区である弘前市立第一中学校の学区交流協議会としても位置づけ、学区内すべての教師が参加することになっている。また、大阪樟蔭女子大学の菅正隆教授の記念講演も予定している。公開研究会では、5年2学級、6年2学級の合計4学級の授業を同時に提案する。すべて英語ノートを使い、ALT・JTEと学級担任とのTT体制の授業、学級担任単独で電子黒板を活用して行う授業など、授業体制や指導方法についても提案する予定である。
- ② 管理部と連携しながら、計画的に教材・教具の管理運営と活動場所の確保を行っていく。



## 6 年間指導計画

月	第5学年		第6学年	
	単元	内容	単元	内容
4月 5月	Lesson1 世界の「こんにちは」を知ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界にはいろいろな挨拶があることを知る。</li> <li>挨拶のマナーを知り、積極的に挨拶する。</li> <li>友だちと挨拶し、作成した名刺を交換する。</li> </ul>	Lesson1 アルファベットで遊ぼう	<ul style="list-style-type: none"> <li>アルファベットの大文字の読み方を知る。</li> <li>アルファベットの大文字の読み方を認識する。</li> <li>自らアルファベットの文字を読み、大文字とその読み方を一致させる。</li> </ul>
6月	Lesson2 ジェスチャーをしよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>感情や様子を表す語を知り、ジェスチャーを付けて思いを伝える。</li> <li>ジェスチャーを付けて進んで挨拶したり、感情や様子を表現したりする。</li> </ul>	Lesson2 いろいろな文字を知ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の様々な文字に興味をもち、アルファベットの小文字を知り、21以上の数字を言う。</li> <li>身の回りのアルファベット表示に興味をもち、大文字と小文字を書き写す。</li> </ul>
7月 8月	Lesson3 数で遊ぼう	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界には様々なジェスチャーがあることを知り1～20の数を使う。</li> <li>幾つか尋ねたり、1～20の数で答えたりする。</li> <li>数を扱ったゲームを友だちと行う。</li> </ul>	Lesson3 友だちの誕生日を知ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の行事や特徴を確認し、月の言い方を知る。</li> <li>自分の誕生月を言う。</li> <li>誕生日についてまとまった話を聞いて、概要を理解する。</li> <li>自分や友だちの誕生日について尋ねたり答えたりする。</li> </ul>
9月	Lesson4 自己紹介をしよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>好き嫌いについて聞き取る。</li> <li>自分の好き嫌いを相手に伝えたり、友だちの好き嫌いを尋ねたりする。</li> <li>自分の好きなものを含めて、自己紹介する。</li> </ul>	Lesson4 自己紹介をしよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の話を積極的に聞き、できることとできないことを理解する。</li> <li>自分のできることとできないことを伝えたり、友だちと尋ね合ったりする。</li> <li>できることを発表し合う。</li> </ul>
10月	Lesson5 いろいろな衣装を知ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界には様々な衣服があることを知り、言い方を知る。</li> <li>自分の意見をはっきり言いながら衣服を買う時の表現を知る。</li> <li>自分の買ったものが正しく伝わるように発表する。</li> </ul>	Lesson5 道案内をしよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な建物の言い方に興味をもち、理解する。</li> <li>方向や動きを指示する表現を理解し、相手に目的の場所を教える。</li> <li>道案内をしたり、案内に従って目的地に行ったりする。</li> </ul>
11月	Lesson6 外来語を知ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>外来語とその由来の語との発音の違いを知る。</li> <li>欲しいものを尋ねたり要求したりしてフルーツ・パフェを作り、紹介する。</li> </ul>	Lesson6 行ってみたい国を紹介しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界には様々な英語があることを知る。</li> <li>行きたい国とその理由を相手に尋ねたり答えたりする。</li> </ul>
12月	Lesson7 クイズ大会をしよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語と日本語の違いを通して漢字の成り立ちのおもしろさに気付く。</li> <li>What's this? の質問を理解し、使って尋ねる。</li> <li>クイズ大会を楽しむ。</li> </ul>	Lesson7 自分の一日を紹介しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界には時差があることを知り、時間についての表現を知る。</li> <li>先生の一日の生活について話を聞き、自分の生活表を作って紹介する。</li> </ul>
1月	Lesson8 時間割を作ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国の小学校の教科とその言い方を知る。</li> <li>教科名などを使ったゲームをしたり時間割を作る。</li> </ul>	Lesson8 オリジナルの劇をつくろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界には様々な民話や物語があることを知る。</li> <li>オリジナルの「大きなかぶ」を創作し発表し合う。</li> </ul>
2月	Lesson9 ニューを作ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本と外国では、朝食の食べ物や料理を表す語を知り、丁寧な表現で欲しいものを伝える。</li> <li>オリジナルのランチセットを作り、紹介する。</li> </ul>	Lesson9 将来の夢を紹介しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な職業の言い方を知り、将来の夢につきたい職業について尋ねたり答えたりする。</li> <li>スピーチのメモをもとに理由を含め自分の夢を紹介する。</li> </ul>

## 7 指導案 第5学年

1 単元名 クイズ大会をしよう (英語ノート1 Lesson7)

2 本時の目標

What's this?という質問を理解し,答える。

3 本時の展開

過程 (分)	児童の活動	学級担任の活動	ALTの活動	●指導上の留意点 ◎評価の観点 (方法) ◆国際理解の視点	教材
挨拶 (5)	・挨拶をする。 Hello, I'm fine/happy/ hungry/sleepy.	・全体に挨拶をする。指導者2人で児童を分担して1人ひとりの児童と挨拶をする。 Hello, how are you?		●1人ひとり英語でやり取りをする機会をもつようにする。	
復習 (10)	【Let's Chant】 ・チャンツを言う。	・絵カードや実物の一部を見せ,それが何かを尋ねる。 What's this? A dog? No, it's not a dog. Do you need another hint? OK. What is it? A cat? Yes, it's a cat. Very good. ・絵カードを見せながら,チャンツを紹介し,ともにリズムに合わせて言う。		●前時に学習したことを思い出させる。 ●Another hint, please? Up/Down/Right/Left, please.などの発話を引き出す。	絵カード (既習単語の)
展開 (15)	【Activity 2】 ・ブラック・ボックスの中に手を入れて中に何が入っているかを予想して答える。 ・見ている児童は,前に出ている児童に,What's this?と言う。前の児童は予想して答える。	・クイズをすることを告げる。 Let's play Black Box Quiz. ☆グループ活動を提案☆ Eraser. Now it's your turn. Who wants to go next?	Look. This is a Black Box. Here is a hole. You can see inside the box. I will put this inside. ～sensei, put your hand into the box. You will touch something inside. Guess what it is. That's right. It's an eraser.	●児童がなかなか答えられない場合には,見ている児童たちに,Small? Big? What color?などとヒントを言わせる。 ◎前にいる児童に質問したり,ブラック・ボックスの中の物を予想して答えたりしようとする。〈行動観察〉	箱 教室 の中 にある物 など
展開 (10)	【Let's Play】 ・シルエットを見て,それが何かを推測する。 rabbit, yacht, bird, butterfly	・シルエット絵カードを見せ,それが何かを尋ねる。 What's this? This is not an eraser. That's right. It's ～.		●Very good. Nice. Fantastic. などと心から励ましたり,ほめたりすることにより,児童の答えようとする意欲を高めるようにする。	シルエット絵カード
挨拶 (5)	・振り返りをする。 ・挨拶をする。 Good-bye. See you.	・児童の英語を使おうとする態度面についてよかったところを言う。 ・挨拶をする。 Good-bye. See you.	・児童の英語についてよかったところを言う。 ・挨拶をする。 Good-bye. See you.	●次時への意欲につながるように,具体的に児童のよかった点を評価する。	

## 8 指導案 第6学年

1 単元名 オリジナルの劇をつくろう（英語ノート2 Lesson8）

2 本時の目標

グループでオリジナルの物語を発表したり、ほかのグループのオリジナルの物語を聞いて、内容を理解する。

3 本時の展開

過程 (分)	児童の活動	学級担任の活動	ALTの活動	●指導上の留意点 ◎評価の観点（方法） ◆国際理解の視点	教材
挨拶 (2)	・挨拶をする。 Hello, I'm fine/happy/ hungry/sleepy.	・全体に挨拶をした後、数名の児童と挨拶をする。 Hello, how are you?		●授業が始まることを意識させ、指導者は元気よく挨拶をする。	
復習 (5)	【Let's Chant】 ・CDに合わせてチャンツを言う。	・CDをかけ、登場人物絵カードを見せながら一緒にチャンツを言う。 Now let's do the chant.		●指導者は絵カードを順に黒板に貼り、それを指しながら言うことにより、児童に意欲をもたせる。	CD 登場人物絵カード
復習 (10)	【Activity 1】 ・グループに分かれて発表の練習をする。	・グループに分かれて練習をするように指示する。 Practice in your groups. If you need help, raise your hand.		●指導者はグループを回り、アドバイスする。 ●CDをかけ、いつでも聞けるようにしておく。	CD
まとめ (25)	・グループごとに発表する。 【Activity 2】 ・他のグループの発表を聞いて、どのような人物や物語などが出てきたかを英語ノートp.55の表に書く。また、感想を発表する。	・発表する順を決める。 ・発表会では司会をする。 Now let's start. First group is Group A. Please start. Very good. ・発表が終わるごとに、英語ノートp.55に他のグループの発表を聞いた感想を書くように指示する。	・各グループのよかったところを言う。 Group B was very good. You spoke loud and clear. Your pictures are very good. You did a good job. I enjoyed it. It was easy to understand. Thank you.	●HRTは主に児童の協力体制などをほめる。ALTは児童の英語についてコメントを言う。 ◎グループで作成したオリジナルの物語を発表し、ほかのグループの発表の内容を理解する。 〈行動観察・英語ノート点検〉 ◆グループ・プレゼンテーションの楽しさを感じ得させ、また多様な表現方法を習得させる。	英語ノート CD
挨拶 (3)	・振り返りをする。 ・挨拶をする。 Good-bye. See you.	・主に英語を使おうとする態度面を評価する。 ・挨拶をする。 Good-bye. See you.	・主に英語面を評価する。 ・挨拶をする。 Good-bye. See you.	●児童のよかったところを具体的にあげることで、児童に次時への意欲を高めるようにする。	